

平成30年10月24日(水)

暮れるのが早い

あっという間に秋が真っ盛りとなって、放課後の時間もあっという間に日暮れてしまう季節となった。夜が長い季節が春まで続く。帰宅時の道路状況と交通事情があまりよくないのがとても心配である。が、生徒諸君には、一人ではなく何人かと必ず下校するように伝えているので、間違いなく気をつけているとは思ふ。しかし、それ以上のあれこれと気をつけなければならないとも考えるのが教師の必定である。

常磐線を通っていたので、時々1番線にあったそば屋でかけそばを食するのが楽しみであった。小遣いがままならないから、月に1度か2度のことだが、なかなか美味であり、100円ラーメンや富松のコロケと並んで、楽しみの一つであるのは間違いなかった。

まだ大黒屋があったころなので、大黒屋の交差点の向かいの画材店の二階にあるパスワードという喫茶店にも何人かでよく行ったものだった。世界館ビルで見る映画も楽しみだった。『ロッキー』の封切り時には見に行ったが、途中で出てしまった苦い経験がある。自分のことだけで精一杯だった高校生時代のふがいなさは、今考えるとどうしようもなく幼稚で幼い考えのなかにあったため息が出るばかりである。

高校生は、疾風怒濤(シュトルム・ウント・ドランク)の時代である。今戻るかと思われたら、御免被りたい。その時を今過ごしている生徒諸君には、そんな時代だったといっても理解されないかもしれない。

しかし、ひとりひとり、全員が疾風怒濤の時代であることは間違いないと言ってよい。なんとかして前向きに乗り越えてくれよともはや通り過ぎてきた者は今の君たちを信じていくほかはない。遅くまで、学習にいそしむ者、これでもかとグラウンドで走り込む者、楽器に夢中になっている者、キャンパスに向かう者、ライトの下にそれぞれのボールを追う者、フラスコの液体を計る者、疲れて机上で眠る者、幸せあれかし。

ただし、交通事故と不審者には絶対注意を怠らないでほしい。肝に銘ず。